

グローバルマイルストーンプログラム 「Payment」

Payment Milestone Program (PMP)は、代金決済プロセスにメスを入れ、自動化を進めるものである。本プログラムにはノキア、シスコシステムズ、インテル、テキサスインスツルメンツ、ナショナルセミコンダクタ他が中心となって、金融業界の国際的な標準化団体のSWIFTや、銀行、クレジットカード会社と連携しながら、進めているマイルストーンプログラム (MP) である。このプログラムでは、ハイテク業界のみならずほとんどの業界で問題となっている売掛金の消込作業を軽減すること、支払いまでの期間を短縮することでサプライヤー側のキャッシュフローを改善することなどを目的としている。

PMPで定義したプロセスは図に示す通りである。バイヤーはセラーおよびバイヤー取引銀行にそれぞれ、支払通知書と送金依頼を送信する。この際に送金依頼は既存の銀行間決済システムを通じて処理され、セラー取引銀行からセラーへ入金通知が行われる。これらの送信データには、18文字の支払番号 (URI : Unique Remittance ID) により関連付けられているため、セラーにおいて支払い通知と入金通知を自動照合させることが可能になる。

ノキアのDavid Blair氏によれば、このプロ

セス自体は、ロゼッタネット (RN) 標準に限定せず、あらゆるEDI (電子データ交換) 標準や銀行間システムで利用可能になるように設計されており、日本の全銀協手順も考慮に入れているという。

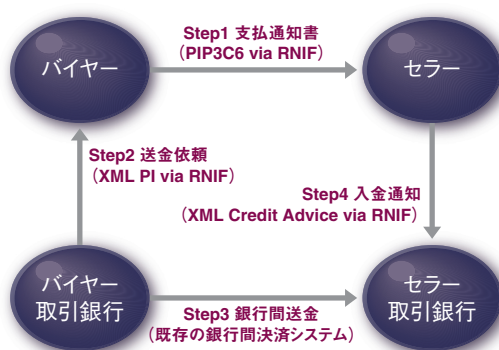
これを活用すれば、セラー側が入金引当作業の自動化による業務改善、現金管理の合理化等今後様々なメリットが見出されていく。

PMP参加企業・銀行は、PIP3C6 / RNIF、SWIFTメッセージを利用した実装を (図中カッコ内参照) 開始しており、2003年12月までに10接続を、さらに04年12月までに少なくとも40接続を行うことを目標として掲げている。

ロゼッタネットでは、従来から受発注一在庫管理一生産管理等が実装の中心になっていたがこれからは新しいプレイヤーとして、銀行・決済機関や物流業者が積極的に参加し始め、このような物流・決済系プロセスの絡むマイルストーンプログラムが次々と発足していくだろう。

ここに、真の意味での企業活動全体を包含するサプライチェーン構築がいよいよ本格化しつつあると言えそうだ。

Payment MPの定義したビジネスフロー



1. バイヤーはセラーに対して支払通知書を送信する。
(通信プロトコルとしてRNIF、メッセージとしてPIP3C6を利用)
2. バイヤーはバイヤー取引銀行に対して送金依頼を行う。
(通信プロトコルとしてRNIF、メッセージとしてSWIFT C2B XMLを利用)
3. 銀行間の決済は既存のシステムを利用して行われる。
4. サプライヤー取引銀行は、セラーに対して入金通知を行う
(通信プロトコルとしてRNIF、メッセージとしてSWIFT C2B XMLを利用)